

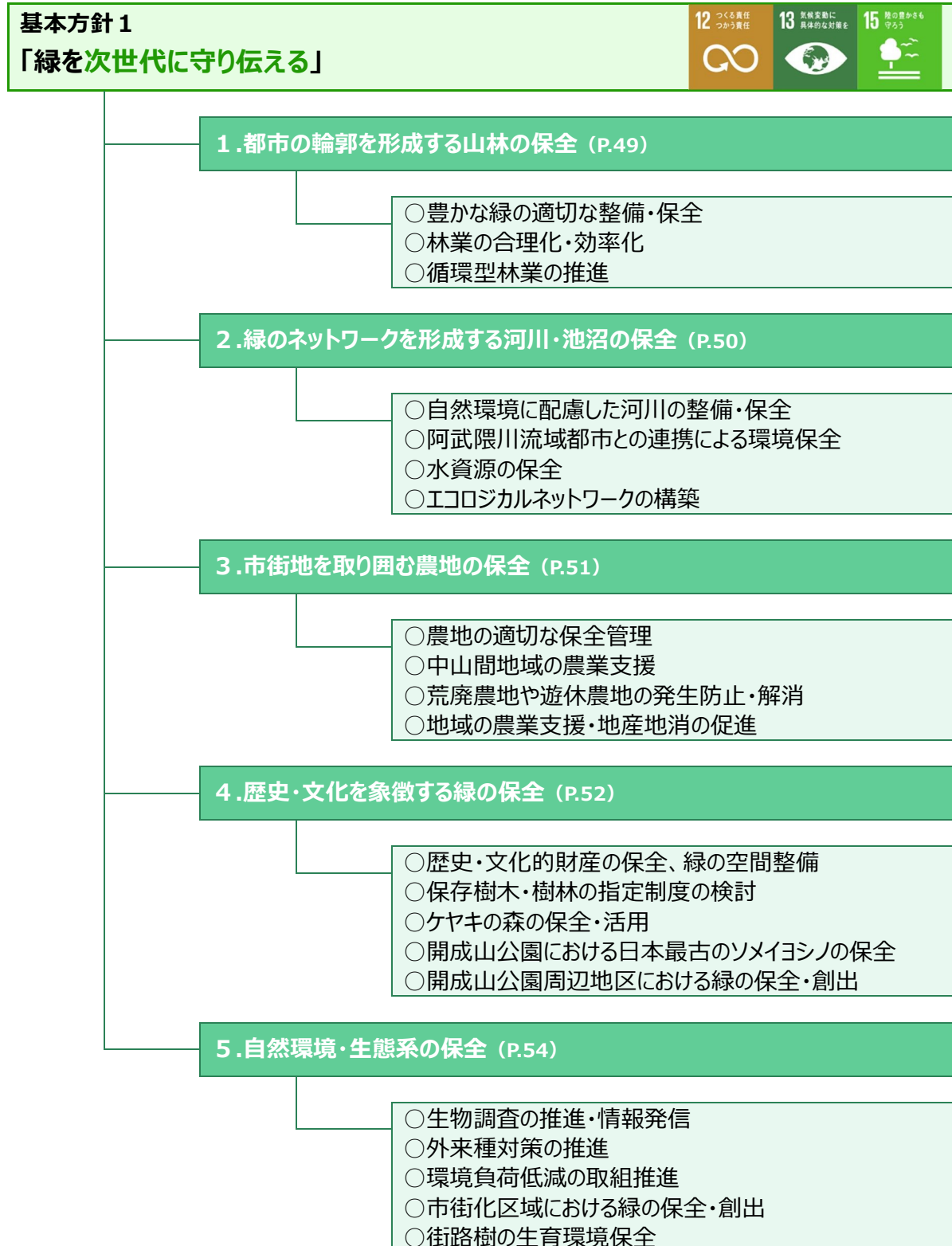
第 4 章

緑のまちづくりに向けた施策

第4章 緑のまちづくりに向けた施策

4-1 施策の体系

4つの基本方針から展開する緑のまちづくりの施策を以下のように設定します。



基本方針 2

「緑の多様な機能を高める」

4



1.気候変動などの環境問題対策の推進 (P.56)

- 再生可能エネルギー・省エネルギーの導入
- ヒートアイランド現象を緩和する緑の整備
- 農林業や環境問題などの学習・体験機会の充実
- グリーン購入の促進
- 緑のリサイクルシステム構築

2.生物多様性に配慮した取組の推進 (P.58)

- 自然環境・生態系の特徴・大切さの周知
- 生態系に配慮した公園の維持管理
- 環境学習の場としての活用促進

3.防災・減災のための緑の保全・活用 (P.59)

- レインガーデンなどの整備
- 貯留機能を有する公園整備の検討
- 公園施設の防災機能の充実
- 車中避難・車両避難場所の指定拡充
- 徳定川流域における浸水対策の検討

4.緑豊かな沿道景観の整備 (P.62)

- 沿道の景観形成推進
- まちなかにおける緑視率の向上
- 年間を通して緑を感じられる都市環境形成
- 沿道緑化の推進、街路樹の適正配置・維持管理

基本方針3

「緑を柔軟に活用する」

3

すべての人に
健康と福祉を

9

産業と技術革新の
基盤をつくる

11

住み続けられる
まちづくりを

12

つくる責任
つかう責任

13

気候変動に
具体的な対策を

17

パートナーシップで
目標を達成しよう

1. 緑を生かした交流の拡大、地域の魅力向上 (P.63)

- グリーンツーリズムの取組強化
- 国営公園の誘致検討
- プロモーションの強化
- 交流・スポーツ機会の拡大
- 定住人口・関係人口の拡大
- 居心地が良く歩きたくなる空間形成
- 花壇などを生かした印象的な空間形成

2. 多様な利用に対応した都市公園などの整備・施設更新 (P.65)

- 公園・緑地の集約・再編、施設の長寿命化検討
- 旧豊田貯水池の活用
- 公園などの空白地区の解消
- Park-PFIなどの官民連携の検討
- 都市公園内の体育施設の整備・改修
- ユニバーサルデザインの導入推進
- 健康増進施設の整備拡充
- 子育て世代のニーズを踏まえた施設整備・更新
- ニュースポーツ系施設の整備検討
- 計画段階からの市民参加

3. 都市公園などの利用促進 (P.67)

- 公園の魅力を引き出す特色のある施設や環境整備
- 駐車場の確保・公共交通によるアクセス性向上
- お祭りやイベントなどの開催・誘致
- 利用される公園づくりに向けた需要調査
- デジタル技術の活用

4. 公園・緑地を柔軟に使いこなすための管理運営体制の構築 (P.69)

- 地域のマネジメント体制構築
- 市民主体の整備・維持管理促進
- セーフコミュニティの推進
- プレーパーク設置・プレーリーダー育成
- 樹木の適切な更新・維持管理

基本方針 4

「緑を育てる仕組みをつくる」



1. 公共公益施設の緑化の推進 (P.71)

- モデルとなる公共公益施設の緑化
- 公共施設用地の樹木などの適正管理

2. 民有地における緑化の促進 (P.72)

- 個々の家庭・地域が一体となった緑づくりの促進
- 屋上・壁面・駐車場などの民有地緑化促進
- 企業・事業所の緑化促進
- 民間開発などにおける緑化の促進

3. 市民・地域の取組促進 (P.74)

- 協働による里山の保全
- 市民菜園の利用促進
- 公園経営戦略の検討
- 社会貢献の場の提供、機会の創出
- 農福連携による緑のまちづくりの取組検討

4. 緑を育てる活動の支援 (P.75)

- 緑化地域制度などの導入検討
- 郡山市水と緑のまちづくり基金の周知・活用
- 地域の多様で活発な取組支援
- 支援制度・サポーター制度検討

5. 緑化促進に向けた普及啓発・支援の拡充 (P.76)

- 積極的な環境保全の取組促進
- 若者の参加を促進する緑化イベントの推進
- イベント情報の発信、育成・保全意識の向上
- 市民・事業者への意識啓発、活動支援

4-2 施策の内容

基本方針1「緑を次世代に守り伝える」に基づく施策

1. 都市の輪郭を形成する山林の保全

- 多様な景観や豊かな環境を育む山林は、各種法令の遵守による保全をはじめ、林業振興施策による適切な整備に努め、次世代に継承していきます。

豊かな緑の適切な整備・保全

- 奥羽山脈、阿武隈山地などの本市の輪郭を形成する豊かな緑は、多様な動植物の生息地として、また、温室効果ガス*である二酸化炭素の吸収、水源かん養、山地災害防止機能などの多面的機能を発揮するグリーンインフラ*として、森林法や自然環境保全法などの法令を遵守するとともに、福島県の森林環境税を積極的に活用し荒廃が懸念される森林の整備を実施するなど、適切な整備・保全に努めます。

林業の合理化・効率化

- 森林の育成や管理を担う林業は、経営の健全化及び安定化のため、国、福島県などの関係機関と連携・協力しながら、ICT*の活用などによる作業の合理化・効率化、人材の育成・確保を図ります。

林業におけるICTの活用例



出典：林業イノベーション現場実装推進プログラム（林野庁）より抜粋

循環型林業の推進

- 地域材の利用を促進するため、人工林などの整備や流通体制の構築、地域材の需要喚起を図り、積極的に地域材を活用する機運を高めていきます。また、木材資源を循環的に利用できるよう、薪ストーブやペレットストーブの導入などの木質バイオマス*の普及促進や公共建築物における建設資材や備品に地元産木材や間伐材の利用、CLT工法*の活用など、伐採する、使う、植える、育てるという循環型林業を推進します。

郡山産木材「と・き・め・木」の活用 (市役所西庁舎ロビー)



※  印は、重点的に取り組む施策であることを示す。

2.緑のネットワークを形成する河川・池沼の保全

- 河川や池沼においては、緑のネットワークの基礎となる資源として、快適な都市環境の形成と豊かな生態系の保全に寄与する緑づくりを進めます。

自然環境に配慮した河川の整備・保全

- 本市を南北に貫流する阿武隈川や東西に流れる藤田川、逢瀬川、笹原川などは、本市の水と緑の軸であるとともに、快適な都市環境を支える風の道*、市民が水辺に親しむ場となることから、自然環境や景観に配慮した多自然川づくり*などにより河川環境を整備・保全します。

阿武隈川流域都市との連携による環境保全

- 阿武隈川の上流域に位置する都市として、国や福島県、宮城県内の阿武隈川沿いの都市と連携しながら、水環境や自然生態系の保全、総合的治水対策を推進します。

水資源の保全

- 水は生活環境や産業活動に欠かせない貴重な資源であることから、水源かん養や水質の浄化などの機能を有する森林の整備事業のほか、河川整備事業や公共下水道事業と連携し、水質汚濁の防止対策や土壌汚染対策を進めます。

エコロジカルネットワークの構築

- 市街地に点在する五十鈴湖、酒蓋池、荒池、五百淵などの池沼と主要な河川を基本として、生態系に配慮したエコロジカルネットワーク*を構築することで、人と生物が共生する自然豊かな都市環境の形成を図ります。

エコロジカルネットワークのイメージ



出典：人と自然との美しい共生エコロジカル・ネットワーク(国土交通省河川局河川環境課)より抜粋

基本方針1「緑を次世代に守り伝える」に基づく施策

3.市街地を取り囲む農地の保全

- 本市の原風景でもある農地は、食料の生産基盤のほか、良好な景観形成や水源のかん養、生物多様性の保全などの多様な機能が発揮されるよう、保全・活用を図ります。

農地の適切な保全管理

- 農地が有するグリーンインフラ*としての多面的機能を維持・増進させるため、農地・農道・水路などの適切な保全管理を図ります。また、農業振興地域制度に基づき無秩序な開発の抑制に努め、農業の振興と国土保全の役割を果たすまとまりのある農地の保全を図ります。

安積平野に広がる田園



中山間地域の農業支援

- 中山間地域などの農地は、営農条件としては不利ながらも水源かん養機能、洪水防止機能、良好な景観の形成、自然環境の保全といった機能を有することから、農業生産活動などの継続的な実施を支援し、多面的機能の確保に努めます。

荒廃農地や遊休農地の発生防止・解消

- 荒廃農地や遊休農地の発生防止・解消に向け、地域・集落における今後の農地利用に係る話し合いの促進や共同活動を支援するとともに、農地の集積・集約化の促進、基盤整備の効果的な活用などを推進します。

地域の農業支援・地産地消の促進

- 農地保全の一環として、農産物の供給や流通経路を強化しつつ、地域の農業を地域で応援する（市民が地元農産物を購入する）という意識を高めることで、地産地消を促進します。

開成マルシェの様子

（福島県内の野菜や果物を生産者が直接販売）



4.歴史・文化を象徴する緑の保全

- 開成山公園やブナの原生林、奥州街道の松並木などの歴史・文化を今に伝える貴重な緑は、地域に根ざした財産として歴史的文脈も含めて次世代に継承していきます。

歴史・文化的財産の保全、緑の空間整備

○俳人・松尾芭蕉が「花かつみ」を求めて歩いたと伝えられる奥州街道や歴史の道百選^{*}に選定される白河街道、伊東祐長（すけなが）が故郷の伊豆を偲び名付けた熱海の温泉街、ブナの原生林が生育する福島県指定天然記念物の隠津島神社（湖南町）などの貴重な歴史・文化的財産は、その価値を後世に伝えるために保全するとともに、緑の空間としての整備を進めます。

隠津島神社（湖南町）



保存樹木・樹林の指定制度の検討

○赤津のカツラや紅枝垂れ地蔵ザクラなどの市内に残る大樹を地域の財産として保存するため、保存樹木・樹林の指定制度について導入・運用を検討します。

赤津のカツラ



基本方針1「緑を次世代に守り伝える」に基づく施策

ケヤキの森の保全・活用

- 本市を代表する観光地である磐梯熱海温泉街の裏山に群生するケヤキの森は、自然資源としての価値はもちろん、散策路が整備されており、市民や観光客が気軽に自然環境にふれあうことのできる緑の空間として保全と活用を図ります。また、磐梯熱海のケヤキは、江戸時代に炭の材料として利用していたことにより、ケヤキとしては珍しい「あがりこ*」と呼ばれる独特の樹形をしており、人と自然の共生を今に伝える資源として、適切な保全に努めます。

ケヤキまつり（ケヤキの森）



開成山公園における日本最古のソメイヨシノの保全

- 開成山公園には、明治初期の開拓事業時に植樹された樹齢140年を超える日本最古のソメイヨシノをはじめとする約1,300本の桜があり、桜の名所として広く親しまれています。この歴史・文化的に価値の高い桜の古木を新たな観光資源として活用するとともに、次世代に引き継いでいくため、積極的に土壌改良や剪定などによる樹勢回復を行い、日本最古に相応しい手厚い保全に努めます。

日本最古のソメイヨシノ

開成山公園周辺地区における緑の保全・創出

- 日本遺産に認定されている本市発展の礎ともいえる安積開拓・安積疏水開さく事業を今に伝える開成山公園をはじめ、開成館、開成山大神宮、旧豊田貯水池及びその周辺は、本市を象徴する地区として、また、市民の憩いの場として、積極的に緑の保全・創出を図ります。

5. 自然環境・生態系の保全

- SDGs未来都市として、地球環境や生物多様性を基盤とする生態系への負荷の低減を図り、持続可能な社会の実現に向けた自然環境・生態系の保全の取組を推進します。

生物調査の推進・情報発信

- 生物多様性の保全に向け、福島県や関連研究機関などと連携して、希少生物や固有種などの保全を図ります。また、市民・事業者・行政がそれぞれの立場で生態系サービス*に配慮した活動を実践できるよう、積極的に情報発信し、多様な地域環境に触れる機会の創出など、理解の促進に努めます。

生き物調査



外来種対策の推進

- 本来、地域には生息しない外来種による在来種への悪影響を抑制するため、国や福島県と連携して農林水産業・自然環境への被害を確認するとともに、外来種の移動や持込禁止に関する啓発と捕獲・採取・処分などの防除対策を推進します。また、外来種に関する情報を広く発信するとともに、市民や公園管理事業者などからの目撃情報を受け付け、速やかに駆除する体制の構築を図ります。

在来種（在来生物）・外来種（外来生物）

もともとは本州より南にしか
住んでなかったカブトムシ



もともとはアメリカ大陸にしか
住んでいなかったカミツキガメ



出典:しってるかな? 外来生物。外国からやってきた生き物たち
(環境省自然環境局野生生物課)より抜粋

基本方針1「緑を次世代に守り伝える」に基づく施策

環境負荷低減の取組推進

- 本市は、脱炭素社会の実現とSDGs未来都市として環境省が進める「2050年 二酸化炭素排出量実質ゼロ」に賛同しており、地球規模で進行する温暖化などの環境問題について、専門家を交えた研究会の設置による対応策を検討しつつ、再生可能エネルギー*の導入やゼロエミッション*活動の促進、市民の意識啓発などの環境負荷低減に向けた取組を推進します。

水素ステーション（郡山市役所敷地内）

市街化区域における緑の保全・創出

- 市街化区域*では、郡山市都市計画マスタープラン2015などに基づく土地利用の展開について、うまいのある都市環境の形成をはじめ、環境負荷低減や生態系への配慮も念頭に、特に、新たな開発に際しては貴重な樹木の保全、緑化スペースの確保を促進するなど緑の保全・創出を検討します。

街路樹の生育環境保全

- 街路樹については、定期的に生育状況を診断し、適切な剪定などにより良好な生育環境を保全します。また、野生生物の生息地間をつなぐ緑の回廊となるように配慮します。

美術館通りの街路樹



基本方針2「緑の多様な機能を高める」に基づく施策

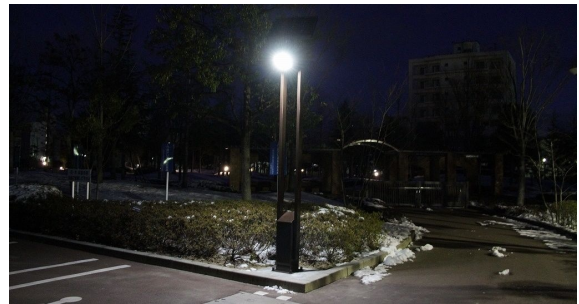
1. 気候変動などの環境問題対策の推進

- 地球規模で進行する気候変動などの環境問題について、緑が果たす役割を再認識し、SDGs未来都市として積極的な対策を推進するとともに、市民の意識向上に努めます。

再生可能エネルギー・省エネルギーの導入

- 脱炭素社会の実現に向けた取組の一つとして、公園施設や体育施設などにおける設備の改修・更新にあたっては、太陽光発電やLED*などの再生可能エネルギー*や省エネルギー機器を導入します。

太陽光発電式白色LED街灯（21世紀記念公園）



ヒートアイランド現象を緩和する緑の整備

- 地球温暖化対策として、また、都市化の進展に伴い顕在化するヒートアイランド現象*の緩和対策として、市街地内に残る貴重な緑の保全や屋上・壁面緑化、駐車場緑化、道路の植樹帯の緑化などの推進とともに、大気冷却効果を有する河川・池沼との連続性による風の道*や木陰などで涼のとれるオープンスペースの確保を図ります。

中町緑地



農林業や環境問題などの学習・

体験機会の充実

- 農林業や環境問題などの緑に関する市民の意識向上や知識をもつ担い手を育成するため、自然観察会やどこでもかんきょう教室・市政きらめき出前講座、アグリサポーター*育成講座など、学習・体験機会の充実を図ります。

アグリサポーター育成講座
（トマトの収穫の実習の様子）



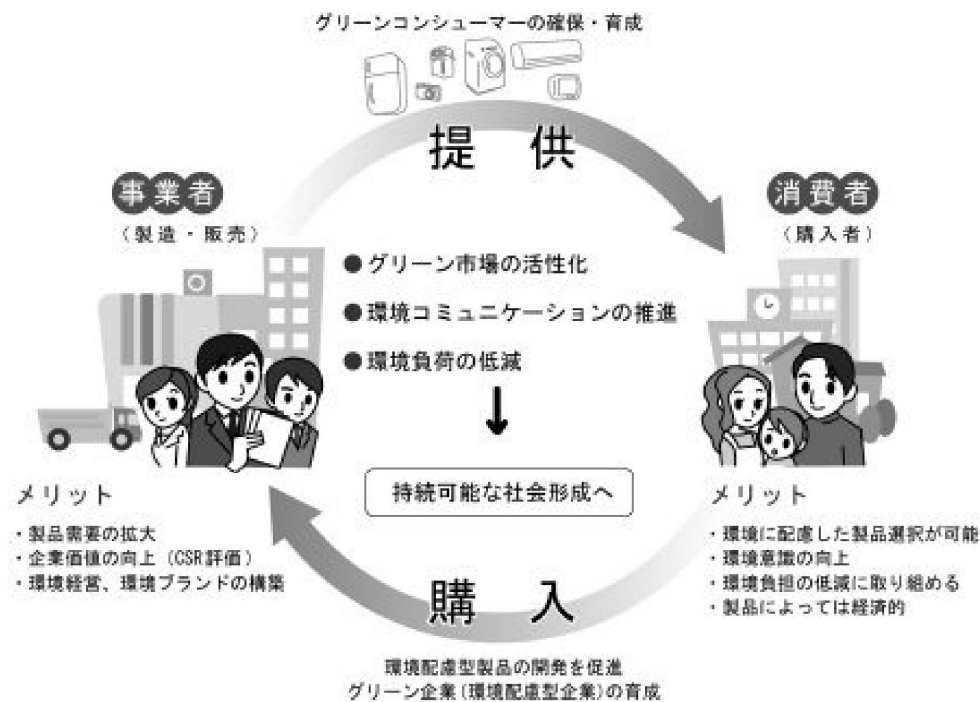
※  印は、重点的に取り組む施策であることを示す。

基本方針2「緑の多様な機能を高める」に基づく施策

グリーン購入の促進

- 商品やサービスを購入する際、価格や品質だけでなく、再生利用可能な素材のものや簡易包装のものなど環境への負荷ができるだけ小さいものを優先的に購入するグリーン購入を促進します。また、市においては、「環境物品等の調達方針」に基づき、積極的にグリーン購入を行います。

グリーン購入により期待される効果



出典：環境表示ガイドライン(環境省総合環境政策局環境経済課)より抜粋

緑のリサイクルシステム構築

- 都市公園や公共公益施設の樹木の維持管理において発生した剪定枝などは、肥料化やチップ化を行い、それを都市公園や公共公益施設の緑の育成に用いるというリサイクルシステムの構築を検討します。

緑のリサイクルのイメージ



2. 生物多様性に配慮した取組の推進

- 都市公園などについて生態系に配慮した維持管理に努めるとともに、環境学習などを通じて本市の自然環境や生態系の特徴、その重要性について広く周知していきます。

自然環境・生態系の特徴・大切さの周知

- 生態系の調査結果は分かりやすく環境学習の教材などとしてとりまとめ、子どもたちに本市の自然環境、生態系の特徴やその大切さを伝えていきます。また、教育現場においては、研修や講座などを通じて、教える側も正しい知識を身につけ、子どもたちに楽しみながら自然環境の大切さを学んでもらえるようなプログラムや調査マニュアルなどを検討します。

もりの館体験学習



生態系に配慮した公園の維持管理

- 五百淵公園や平成記念郡山こどものもり公園などの豊かな自然を有する都市公園における自然林や池沼については、保護すべき野草の刈取防止や高木・中木・低木の階層構造の確保、希少生物の保全など、生態系に配慮した維持管理に努めます。

五百淵公園と隣接する南川



環境学習の場としての活用促進

- 動植物の生息・生育・移動空間となる公園・緑地、河川などは、市民活動や学校の課外活動としての自然観察や生物調査など、市民に親しまれる環境学習の場としての活用を促進します。

逢瀬川の水生生物観察（川遊び体験）



基本方針2「緑の多様な機能を高める」に基づく施策

3. 防災・減災のための緑の保全・活用

- 大規模化・激甚化する自然災害に対して、雨水の浸透・貯留のための緑を保全するとともに、グリーンインフラの観点から都市公園などを生かした防災・減災機能を強化します。

レインガーデンなどの整備

- 気候変動による水害リスクの増大への備えとして流域治水*を進めるため、グリーンインフラ*の観点から洪水調整機能を持ち、水質浄化やヒートアイランド*対策としても有効なレインガーデン*などの整備を検討します。また、レインガーデン*は家庭でも実践可能なグリーンインフラ*の取組として、普及促進を図ります。

レインガーデン（英国シェフィールド市）



貯留機能を有する公園整備の検討

- 浸水想定区域が広がる地域では、流域治水*の取組強化の一つとして、公園内の池沼などを生かしながら一時的に雨水などを貯留できる遊水池として機能する公園の整備を検討します。また、都市公園の地下スペースを活用した雨水貯水池の整備を検討するなど、都市型水害の被害を低減する取組を推進します。

21世紀記念公園の地下に整備した調整池（麓山調整池）



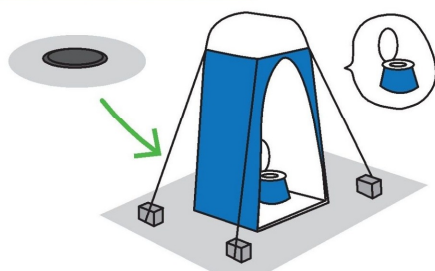
雨水調整池内部

公園施設の防災機能の充実

- 耐震性貯水槽の整備やオープンスペースの確保といった防災機能の充実により、都市公園を防災拠点として活用します。さらに、災害時に誰もが安全に避難できるように、避難路の整備などとあわせた段差の解消やユニバーサルデザイン*によるトイレの整備を行います。また、かまどベンチなどの平常時にも活用可能な施設への切替えを推進するとともに、氾濫区域においては垂直避難*を想定した公園施設の構造上の工夫（高盛土など）による避難場所の整備を検討し、それらの利用方法などを地域の防災訓練で周知することで、地域防災力の向上を図ります。

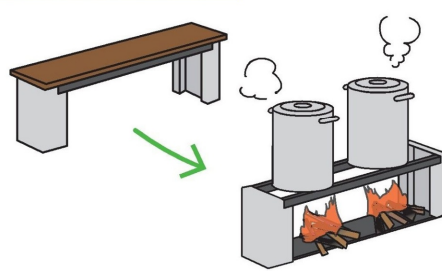
公園における防災施設の例

マンホールトイレ



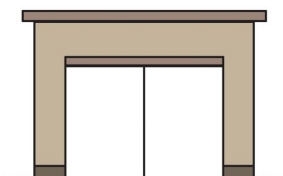
災害時にはマンホールのふたを開け、その上にトイレを設置することにより、非常用のトイレとなります。

かまどベンチ



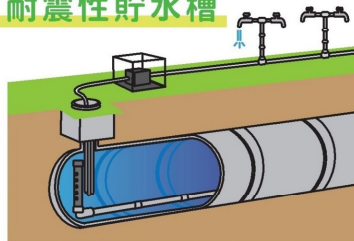
いつもは腰かけて休憩できるベンチ。災害時は座板を外して備え付けの金網を使ってかまどとして使うことができます。色々なタイプがあります。

防災倉庫



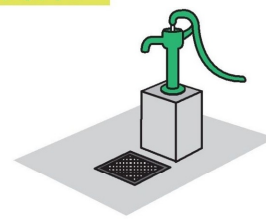
救助資器材などが入っている倉庫。災害時には中の資器材を出して拠点本部や応急救護所としても使えます。

耐震性貯水槽

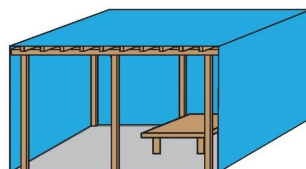
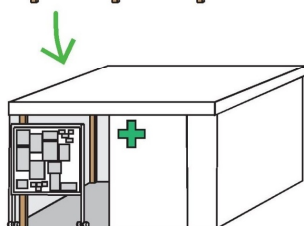


災害によって水道等のライフラインが断絶した場合の、当面の飲料用水、防火用水、生活用水等として利用できるように、耐震性貯水槽や防災井戸を設置している公園もあります。

防災井戸



パーゴラ



災害時にブルーシートを張る事で、応急救護所や仮設本部等になります。防災倉庫と同様、様々な使い方ができます。

防災用のテントが備え付けられたパーゴラがある公園もあります。

放送施設



屋外スピーカー等の放送施設がある公園では、避難者への災害や物資の配給に関する情報発信、防犯（避難生活中の空き巣被害の防止）の呼びかけ、ラジオ体操によるエコノミー症候群予防などを行うことができます。

出典：身近な公園 防災使いこなしBOOK（国土交通省国土技術政策総合研究所）より抜粋（一部加筆修正）

基本方針2「緑の多様な機能を高める」に基づく施策

車中避難・車両避難場所の指定拡充

- 本市では、指定避難所*・指定緊急避難場所*などに加え、車中避難・車両避難場所を設置していますが、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）*をはじめとする感染症対策の観点から、実態を踏まえ、都市公園を活用したさらなる指定拡充を検討します。

車中避難を考慮した公園活用の検討



出典：郡山市

徳定川流域における浸水対策の検討

- 令和元年東日本台風などの近年の激甚な水害や気候変動による水害の激甚化・頻発化に備え、本市と国や福島県などのあらゆる関係者が協働して、阿武隈川流域の治水対策を計画的に進めます。また、令和元年東日本台風で浸水被害のあった準用河川などの整備を促進するとともに、徳定川の一部である通称古川池については、グリーンインフラとして貯留機能の強化及び緑化の推進などを検討します。

令和元年東日本台風による浸水（古川池周辺）

